

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は 発表 の年月	発行所、発表雑誌又は 発表学会等の名称	概 要	編者・著者名 (共著の場合 のみ記入)	該当頁数
(著書) 1. 『三昧耶戒序/秘密三昧耶 仏戒儀/平城天皇灌頂文 / (弘仁) 遺誡』	共著	2003.12	四季社	『秘密三昧耶仏戒儀』の現代語訳ならびに語注を担当。	宮坂有勝・大沢聖寛 佐藤正伸・北川真寛 佐々木大樹	
(学術論文) 1. 秘密莊嚴住心の存在論的 構造について	単著	1997.3	密教文化 (198)	空海の十住心思想における秘密莊嚴住心における身心の定義について、M・ハイデッガーの実存論との対比を行い、その相違点を論じた。(査読有り)		49-63
2. 『般若心経秘鍵』の撰述 年代について—諸開題に 見られる経題解釈法から の考察—	単著	2001.2	高野山大学大学院 紀要 (5)	近来、空海最晩年の撰述と言われてきた『般若心経秘鍵』の撰述年代について、その経題解釈方法が、天長前半期で否定される方法であることから、天長年間中頃までの撰述である可能性を指摘した。(査読有り)		1-16
3. 平安時代初期における 法身説法説の受容	単著	2003.3	日本印度學仏教学 研究 (51-2)	天長六本宗書に数えられる玄叡の『大乘三論大義鈔』における法身説法批判を取り上げ、空海当時の顕密対弁に対する反応を検証した。(査読有り)		652-654
4. 『弁顕密二教論』巻上 における「或者」について	単著	2004.12	高野山大学大学院 紀要 (8)	『弁顕密二教論』巻上で空海が批判した、『法華經』教主を法身と解釈する「或者」について、それが伝教大師最澄を意識したものと考えられることを指摘した。(査読有り)		1-16
5. 『華嚴宗一乘開心論』に おける「円円海」解釈 —『弁顕密二教論』との 関連を通して—	単著	2004.12	日本印度學仏教学 研究 (53-1)	天長六本宗書に数えられる普機の『華嚴宗一乘開心論』における『釈摩訶衍論』解釈を、空海の『弁顕密二教論』における解釈と比較し、空海の顕密対弁に対する空海当時の反応を検討した。(査読有り)		46-49
6. 『二教論』における『大 智度論』法性身説法につ いて	単著	2005.3	密教学研究 (37)	『二教論』で空海が用いた『大智度論』所説の法性身説法について、空海当時の理解ならびにそれに基づく批判を踏まえつつ、空海が『大乘起信論』および『釈摩訶衍論』の始覚門から、この法性身説法を解釈している可能性を指摘した。(査読有り)		59-73
7. 『弁顕密二教論』におけ る『楞伽經』法仏説法の 解釈について—特に法相 教学との対比を通じて—	単著	2005.12	密教文化 (215)	空海が独自の解釈を行ったとされる『楞伽經』所説の法仏説法について、それが空海当時の法相教学では常識的に論じられている点、およびその上で空海がその内容を大きく変容させている点を指摘した。(査読有り)		1-28
8. 「一乘経劫」について —即身成仏思想に関する 問題—	共著	2006.2	高野山大学密教文化 研究所紀要 (19)	空海の提唱した即身成仏思想について、華嚴・天台の成仏論との関連を問題とした『宗義決択集』所収の論義である「一乘経劫」について、天台宗における議論と共に検討を加えた。(査読有り)	北川真寛	43-70
9. 『大日経開題』における 「神変」と「加持」について	単著	2010.3	密教学研究 (42)	『大日経開題』における「神変」と「加持」について、伝統教学における註釈を中心に検討した。		135-150
10. 『御遺告』における 順晡について	単著	2014.3	空海研究 (1)	『御遺告』において恵果和尚の兄弟弟子と位置付けられる順晡について、それが東密への蘇悉地流入の影響によるものと推論し、検討を加えた。(査読有り)		59-85
11. 凡聖六大について	単著	2015.2	高野山大学大学院 紀要 (14)	『宗義決択集』所収の「凡聖六大」の論義を、その他の論義書の論義とともに検討し、この論義が「秘密灌頂」の口決と密接な関係を有し、その文脈で論じられていることを指摘した。(査読有り)		1-15
12. 空海の『大智度論』解釈 について	単著	2015.3	空海研究 (2)	『弁顕密二教論』で展開される『大智度論』を用いた「二重二諦」説が、		15-35

				『金剛頂経』と『大日経』における修道論的観点から導き出された空海独自の解釈であることを指摘した。(査読有り)		
13. 覚海が飛んだ日	単著	2015.3	密教学会報 (53)	高野山教学の祖ともされる覚海大徳が天狗となったという伝説について、覚海の伝記資料や未翻刻資料の教相史の資料を検討し、この伝説が江戸時代の初期まで確認できないことを指摘した。(査読無し)		297-319
14. 金剛三昧院本『御手印縁起略解』について	共著	2016.3	高野山大学密教文化研究所紀要 (29)	高野山大学図書館蔵・金剛三昧院寄託の快弁撰『御手印縁起略解』は、その存在が指摘されていたものの、翻刻されておらず未見の資料であった。今回その翻刻調査を通して、金剛三昧院本の『略解』が快弁自身の原本である可能性を指摘した。解題部分を担当。(査読有り)	森本一彦 川染龍哉 木下智雄 榊原啓優	1-49
15. 『弁頭密二教論』における「宗極」について		2016.3	空海研究 (3)	『弁頭密二教論』巻上で「宗極」とされる概念について、それが空海当時どのような意味で理解されていたのかについて検討し、それが『涅槃経』の「一切衆生悉有仏性」との関連で理解される概念であったことを指摘した。(本誌有り)		77-96
16. 「六大四曼互為能生」について		2016.3	密教学研究 (48)	『宗義決択集』所収の「六大四曼互為能生」をとりあげ、その内容が「灌頂の極位」の口決にかかわることを指摘した。		51-65
(その他) 1. 真言密教における「神変」 —衆生救済と即身成仏—	単著	2016.2	京都・宗教論叢 (10)	チェーンレクチャーテーマ「人間にとって救済とは何か」に基づく講義の概要。大乘仏教の「神変」思想が、救済論と密接な関わりを有することを確認し、その思想が空海の即身成仏思想にまで継続することを示した。		43-45
〈口頭発表〉 1. 平安時代初期における 法身説法説の受容		2002.7	日本印度學仏教学会 第53回大会 (於 東国大学校)			
2. 『華嚴宗一乘開心論』に おける「円円海」解釈 —『弁頭密二教論』との 関連を通して—		2004.7	日本印度學仏教学会 第55回大会 (於 駒澤大学)			
3. 『二教論』における『大 智度論』法性身説法につ いて		2004.10	日本密教学会 第37回学術大会 (於 総本山金剛峯寺)			
4. 『大日経開題』における 「神変」と「加持」について		2009.10	日本密教学会 第42回学術大会 (於 真言宗豊山派 宗務所)			
5. 『御遺告』における 叡山天台の影響—『御遺 告』に表れる順暁につ いて—		2013.7	空海学会 研究発表会 (於 高野山大学)			
6. 空海の『大智度論』解釈 について		2014.5	空海学会 第1回学術大会 (於 高野山大学)			
7. 東密における『弁頭密 二教論』の受容—「不		2015.7	密教研究会学術大会 (於 高野山大学)			

同報身毘盧遮那」解釈 を中心に					
8. 『弁顕密二教論』におけ る「宗極」について	2015.9	空海学会 第2回研究発表会 (於 高野山大学)			
9. 六大四曼互為能生について	2015.10	日本密教学会 (於 真福寺)			
10. 「遍計所執捨不捨」について	2016.7	密教研究会学術大会 (於 高野山大学)			